ヴァチカン便り（7）

家族問題はシノド待ち

大ローマ布教所長
山口　英雄　*Hideo Yamaguchi*

新枢機卿の任命

新しい年に入って、1月12日、現法王フランチェスコは就任後初めて枢機卿を任命した。合計19名。そのうち、イタリア人が任命されたのは、僅かに5名だけだった。特筆されるのは、そのうちの一人、グワリテロ・バセッティ氏だ。彼はペルジャの大司教を務めている。イタリアカソリック界では、誕生しつつある新星と見られ、次期のイタリア司教会議の議長とも見られている。彼も公用車に乗ることもなく、警備の車もなく、動き回っている。このことが、現法王に気に入られたのだろう。

枢機卿に任命された者の内訳は、地球の南の出身者が増加し、逆に地球の北の出身者は少なくなっている。その中で3人が法王に選ばれる権利のない80歳以上だ。枢機卿の総数はこれで218名となり、出身地は世界68カ国に及ぶ。全体的に見ると、ヨーロッパ出身の枢機卿の数は減り、ヨーロッパ以外の出身の枢機卿が増えている。

一番驚くべきことは、98歳のローリス・カーポヴィッラ氏だ。氏は「良き法王」と知られ、「第二ヴァチカン公会議」を主宰した法王ヨハネ23世の特別秘書だった。今年4月27日には、ヨハネ23世は聖者として列せられるので、彼が枢機卿になったのには、一つ因縁めいたものを感ずる。今はベルガモ県の、ヨハネ23世の出身地のソット・イル・モンテの町で、隠遁生活を送っている。高齢だが、非常に元気で、今でもユーモアを持ち合わせている。その一つ。昨年5月カーポヴィッラ氏は、法王フランチェスコより直接電話を受けた。その時に、法王は彼に「ヨハネ23世よりもっと良き法王になれるよう」に祈ってくれと頼んだというのだった。

新しい枢機卿が増えると、どうしても関心を引くのが、次期法王選挙はどうなるのだろうかということだ。法王を選ぶ権利、選ばれる権利、つまりコンクラーベに参加出来る権利を有している者は計122名。そのうち、ヨーロッパ人は61名となる。しかし、この数字のうち、今年中には80歳を迎える人がかなりいるので、54名となる。19名がラテン・アメリカ、15名が北アメリカ、13名がそれぞれアフリカとアジア、1名がオセアニア出身だ。

教会の改革

現法王フランチェスコによる教会改革は続いているが、法王は世界的傾向、特に欧米での傾向に心を痛めているようだ。特に欧米は一早くカソリック（キリスト教）が広まった所である。それが現代の「人権問題」に関連して様子がおかしくなっている。カソリック界では、習慣的に誕生後間もなく洗礼を受けているが、成人するに従って、教会に足を運ぶ人は少なくなっている。そのために、法王はヨーロッパにおけるカソリックの再福音化の運動が必要であるとしている。

これはイタリアの統計だが、1991年を基準として2011年までの20年間に、洗礼を受けた人は20万人近く、聖体拝礼を受けた人は13万人減り、学校における宗教の時間のカソリックの時間の出席者は4％減の89.3％となっている。また、教会で結婚式をあげた人は11万人減ったのに対し、市役所での市民結婚式が3万組増えている。聖職者になる人は9千人減少している。

ここで最近おこなわれたイタリアおよびフランス、スペイン、ポーランドなどのカソリックの国12カ国、1万2千人にアンケートを実施した世論調査の結果を紹介しよう。

現法王の行動、作法については、74％の人が「エクセレント」、25％が「よし」としている。

世論調査の結果を受け、家族問題の論議はシノド待ち

現代の欧米社会では、離婚者が急増している。その離婚者の中で、再婚している人も非常に多くなっている。1回目は教会で結婚式を挙げても、離婚は教会によって認めらていないから、再婚の式は「市役所」で民法にもとづいて行われる。

	イタリア		世界	
	はい	いいえ	はい	いいえ
離婚	16%	79%	38%	58%
聖職者の独身制	57	38	50	47
女性聖職者の採用	59	35	51	45
中絶	15	13	57	33
（特別容認）	68		8	
避妊（用具の使用）	84	12	78	19
ゲイの結婚式容認	33	66	30	66
教会でのゲイの結婚式	16	80	19	76

再婚した人たちは現在の教会では受け入れられない。しかしその人たちの中には、教会で「聖体拝礼」を、つまり、「赤ブドウ酒」はキリストの血、「聖餅」はキリストの体として、受礼したいという人が、かなりいるのだ。現代社会、キリスト教社会の中でそういう人を放っておいてよいのだろうかと言う問題が大きくなっている。そこで、今秋開催される世界司教会議（シノド）で、法王は家族の問題として論議するように研究中だ。

世論調査の結果を受けて、その結果について神学者でドイツ人のキュング（Küng）氏に聞く。

問　世論調査の結果をいかに判断するか？

答　教会の教えと世界における現代のカソリックの考え方の間に大変な違いがあることを露呈しているようだ。

問　あなたにとって、世論調査の一番の長所は？

答　世界の87％の人が、イタリア人の99％までが新法王を受け入れていることは、前法王ベネディクト16世の時に法王庁を揺るがす問題はあったが、現法王フランチェスコは完全に解決したようだ。

問　前法王ラッツィンガーはこの世論調査の結果をどうみているだろうか？

答　当然この結果を悲しんでいるだろう。しかし、教会が前に進んでいることには喜んでいるだろう。

問　司祭にとって、また司祭階級にとって、この世論調査はどういう意味があるのか？

答　改革に取り組もうとする司祭には、大きな勇気が与えられるだろう。先ず、自分たちの納得に基づき、大胆に何も恐れることなく、勤められるだろう。2番目に、守旧派の人にとっては、自分たちの主張を熟慮し、改革者の論理を聞くことが出来る。3番目に、ヴァチカンの内部だけではなく、全世界にいる反動的な司祭

（12頁へ続く）

第 268 回研究報告会（2 月 10 日）「清末提督学政赴任記考（その 1）嚴修『蟫香館使黔日記』を通して」

標記題目で、国際学部の朱鵬先生から報告があった。嚴修（範孫・1860 ～ 1929）は、天津の人。科挙の改革に「経済特科」を提案、袁世凱の幕僚として天津の近代教育を振興、学部侍郎として全国の教育行政に携わった。彼に関わる資料の紹介のあと、『蟫香館使黔日記』は、日清戦争勃発の光緒 20 年、科挙試験廃止直前における貴州省の科挙、学校の実情を詳細に記録している点において興味深く、特に提督学政の日常を記録したものとしても貴重であり、清末の有名な日記として注目されるとした上で、清末社会の様子をリアルに再現した日記の一部が紹介された。

（堀内記）

初の「出前教学講座」を沖縄教区で開催

佐藤孝則

３月２日、おやさと研究所は初めての「出前教学講座」を、沖縄教区（会場：天理教那覇分教会）で開講した。おやさと研究所は、道友社６階を会場に毎年「公開教学講座」を開講している。その際のアンケートで、しばしば「おぢば以外で講座を開催してほしい」との要望があった。これを受けて検討を重ねていたところ、沖縄教区の担当者から、沖縄での開催の打診があり、今回の開講となった。

この「出前教学講座」は今後５年間、毎年３月と９月の２回開講することとなり、３月は「原典に学ぶ」シリーズ、９月は「実践」シリーズとして合計 10 回の講座を予定している。初回の「原典に学ぶ」では、深谷忠一所長が講師を務め、「おさしづ」について 90 分間講義した。教会長やようぼく 40 名ほどが熱心に聞き入り、質疑応答も予定時間を超過するほどだった。

講義をする深谷所長

（９頁からの続き）

にとっては、頑固な抵抗を放棄し、良識を選ぶ時である。

問　世論調査はキリスト教徒にとって基本的には何を意味するのか？

答　教会内部の改革は大変重要な動きである。改革の動きは「私たちは教会」であるという気持ちである。

問　この 10 年、あなたは教会改革を唱えていたが、この世論調査の結果は、あなたの勝利と思うか？

答　別に勝利とは思ってはいない。この結果は、第二ヴァチカン公会議以降の動きとして明白なことである。教会の中に未だ改革しようとする力があることを嬉しく思う。

問　法王は、この世論調査の結果を引っさげて前に進めるか？

答　私の慎ましやかな意見を申すならば、法王は今進んでいる道を、さらに前に進んで欲しい。結果を恐れる必要はない。

法王自ら洗礼を授ける

現法王は１月 12 日、システィーナ礼拝堂で 32 名の新生児に洗礼を授けた。礼拝堂内は、新生児たちの泣き声で、大変な騒ぎとなった。それを察した法王は、その一団の泣き続ける姿を見て、若いママたちを呼び寄せて、乳児を満足させるために、お腹が空いていることだろうから、ミルクとか何か簡単にたべられるものをあげたらどうかと語りかけた。特筆すべきことは今までになかったことであるが、教会で結婚式をあげなかった夫妻の子供が、ここで洗礼を受けたことだ。

法王にとってはこのようなことは初めてではない。法王になる以前、一枢機卿の時代に、未婚の母の子供などにも洗礼をさずけている。

法王が子供の法王を抱く

２月 26 日、３万人以上の人を集めて、サン・ピエトロ広場で一般謁見が行われた。カーニバルの期間だったので、多くの子供たちが仮装して、親に連れられて来ていた。子供たちはいろいろな格好をしていたが、その中にローマ法王と全く同じ格好をした子がいた。法王はその子を抱き上げ、車に乗せ、一緒に広場を回った。子供を抱き上げ、接吻等していたがそのうちに子供が泣き出してしまって、法王もどうしたら良いのか分らなくなってしまった。

「開講 20 周年記念・公開教学講座」のお知らせ

来年度（平成 26 年度）の公開教学講座は、９月から開講を予定しています。

詳細は本誌次号以降で改めてご案内致しますが、今回は開講 20 周年を記念して講演会と教学講座に分けて実施する予定です。

グローカル天理
第 15 巻　第４号　（通巻 172 号）
2014（平成 26）年４月１日発行

ⓒ Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者　深谷忠一
編集発行　天理大学 おやさと研究所
〒 632-8510　奈良県天理市杣之内町 1050
TEL　0743-63-9080
FAX　0743-63-7255
URL　http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm
E-mail　oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷　天理時報社
Printed in Japan